

中海・宍道湖漁業振興対策事業

ハクレン親魚養成試験（概要）

鈴 本 博 也

本種はコイ科の魚で植物プランクトン食で知られている。原産地はアジア大陸東部で北限は黒竜江、南限は華南またはベトナムとされている。日本へは草魚と共に移入され、既に利根川では多数の繁殖が認められているが、近年では茨城県霞ヶ浦でも大量に漁獲されている。

当分場では中海、宍道湖が淡水化された場合の魚種転換対策の一環として、本種を導入して以来、現在まで引続き養成試験を実施しているため、その概要を報告する。

昭和59年9月に稚魚1,000尾（BL. 8 cm, BW. 10 g）を移入した。養成法は飼育池1面（282㎡、水深0.7mで200トン、側壁はコンクリート、池底は泥、排水口側に約2坪の魚溜りあり）に河川水を注水し止水型とし、コイ用配合飼料の粉末（日本農産KK製、ニューカープマッシュ）を適宜給与する方法である。

昭和62年1月22日現在、体長約25cm、体重約300gに成長して422尾を飼育しているが、未だ採卵可能な状態とはなっていない。表1に飼育魚の成長を示した。

表1 飼育魚の成長

項目	59.9.18	60.9.19	63.1.22	備考
BL	8	22.8	24.8	59.9.18
		～24.0	±1.4	1,000尾
BW	10	101.3	303.2	62.1.22
		～151.0	±45.6	422尾

BL (cm) BW (g) $\bar{x} \pm S D$ DATA VOL 50